令和４年度
スクール・エンパワーメント推進事業

テーマ：言葉で考えや思いを表現できる子の育成 ～豊かな言葉の使い手をめざして～

国語の授業づくりモデル校
和泉市立国府小学校

つけたい力

・人との関わりの中で、自分の考えや思いを伝える力
・論理的に思考する力や思考を支える語彙力
・自ら本を読もうとする。

取組みの概要・ポイント

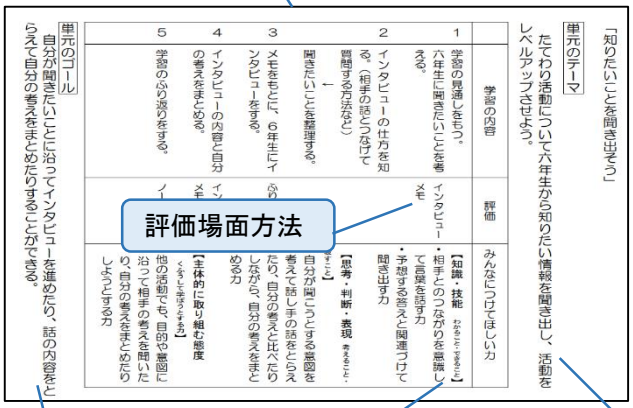
・「単元マップ」の活用や「言葉の力」を高める取組みとして、課題解決までの見通しを持ち、気づいたことや考えたことを友だちや教員に自分の言葉で表現することを重視した学習活動を展開した。
・思考に関わる語句の使い方の理解を図り、自分の考えを言語化する力を高める取組みを行った。

具体的な取組みの内容①「単元マップの活用」②「言葉の力」を高める取組み

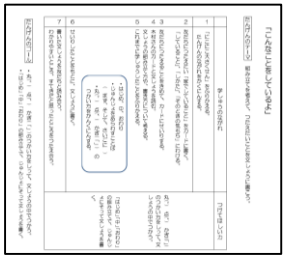
全学年「単元マップ」の活用【学びの主体者の育成】

計画の際、児童の実態を踏まえながら身に付けるべき資質・能力を明確にする。【指導観の共有】

学びの過程→事前に学びのポイントを示す。（何を学ぶのか・どのように学ぶのか）



評価場面方法



単元のゴール（何ができるようになるのか）

観点ごとに明示

主体的に学びに向かうことができる言語活動の設定

児童に提示し共有する。

・児童の視点からわかり易い言葉で表記する。
・見通しを持つとともに、「自己の学習の調整」につなげる。

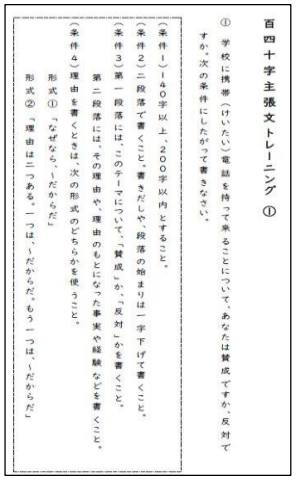
言葉の力を高める取り組み

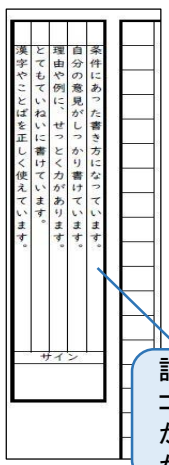
①「ことばのいずみ」【語彙指導】

各学年でインプットさせたい言葉（人物や心情を表す言葉・思考に関わる言葉など）を一覧表にしたシートを、全ての教科等における文章を書く場面で活用した。

②140字主張文トレーニング【書く力の向上】

・5年生の児童がテーマ作文に取り組み、明らかとなった課題を学校全体で共有し、各学年の発達段階に合わせ、自分の考えを書く機会の充実を図った。
・課題に示された条件を踏まえて書いたり、自分の考えを表現する際に文章の書き方を整え、筋道を立てて書いたりできる児童が増えてきている。





評価のポイントを提示。コメントを記入する必要がなく、添削に時間がかからないように工夫。

取組みを通しての子どもの変容

・アンケート調査「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」（4年生以上）において肯定的回答が80%以上であり、主体的に取り組む児童が増えてきている。
・令和4年度全国学力・学習状況調査における記述式問題において全国平均を上回り、着実に書く力を身に付けることができた。
「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」・・・全国比+5ポイント。「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」・・・全国比+7.7ポイント。